

伯耆公御房消息

弘安五年二月二五日 六一歳

御布施御馬一疋鹿毛御見参に入らしめ候ひ了んぬ。

兼ねて又此の経文は廿八字、法華經の七の卷薬王品の文にて候。然るに聖人の御乳母の、ひと^年せ御所勞御大事にならせ給ひ候て、やがて死なせ給ひて候ひし時、此の経文をあそばし候て、浄水をもってまいらせさせ給ひて候ひしかば、時をかへずいきかへらせ給ひて候経文なり。なんでうの七郎次郎時光は身はちいさきものなれども、日蓮に御こゝろざしふかきものなり。たとい定業なりとも今度ばかりえんまわうたすけさせ給へと御せいぐわん候。明日寅卯辰の刻にしやうじがはの水とりよせさせ給ひ候て、このきやうもんを^灰はいにやきて、水一合に入れまいらせ候てまいらせさせ給ふべく候。恐々謹言。

二月廿五日

日 朗 花 押

謹上 は わ き 公 御 房